

# クリエイティブひがしね ニュース

発行 NPO法人クリエイティブひがしね

999-3796 山形県東根市中央1-5-1 タントクルセンター内

TEL 0237-43-1155 www.higashine.org 発行責任者 菊地 和博



## 「家庭教育支援チーム」文部科学大臣表彰を受けました

あそびあランド センター長 伊勢 博

### ◇「家庭教育支援チーム」とは

2019年度「家庭教育支援チーム」の活動推進に関する文部科学大臣表彰に私たちの活動が選ばれました。この「家庭教育支援チーム」の内容を要約すると「地域の多様な人材で構成された自主的な集まりで、地域で子育てや家庭教育に関する相談にのり、親子で参加する様々な取組みや講座などの学習機会、地域の情報などを提供、また地域の実情に即して、学校や地域、教育委員会などの行政機関や福祉関係機関と連携しながら、子育てや家庭教育を応援」となっています。

### ◇私たちの活動の理念

私たちは、家庭教育における今日の課題を踏まえ、地域の実情や課題解決に応じた多様な事業を、3つの理念（未来をクリエイティブ・地域をクリエイティブ・輝きをクリエイティブ）に込め、「タントクルセンター」と「あそびあランド」を拠点に展開してきました。

この理念を展開するために、まず子どもにとっての最善の利益とは何かを追究し、子ども自らが遊びを通

して自主性や創造性、社会性を育む「遊育」と、地域ぐるみで未来を担う子どもを、ともに育てる「共育」を支援のテーマに掲げ、運営の核として親の悩みや不安に寄り添った講座など、幅広くきめ細やかな家庭教育支援を行ってきました。また「あそび」「子育て支援」「ファミリーサポート」の機能を中核にしながら、あかちゃんサロン、遊びの出前、わらべ唄や昔あそびの伝承、地域の人たちの支援を受けながら米づくり、コンサート、児童合唱団の創設と育成など、子ども達が地域とつながり、未来とつながるさまざまな活動を取り入れてきました。

### ◇受賞をこれからの力に

これらは、開館以来先駆的施設として、全国から注目されてきた職場に関わってきたという自負に基づいております。今回の受賞は、無心に努力を積み重ねてきた職員、支援して頂いた行政や地域の方・関係者に対する評価として共に喜び、これからの活動のエネルギーとして深化させていきたいと思っております。



# 「子育て世帯にうれしい制度」は 屋内大型遊具がある施設の整備の中で けやきホールが紹介されました

みんなで作る地域応援サイト「生活ガイド.com」が運営する「子育て世帯にうれしい制度」ランキングで「屋内大型遊具がある施設の整備」が第1位に選ばれました。その中で全国の数ある屋内遊戯施設例のひとつとして、さくらんぼタントクルセンター「けやきホール」が紹介されました。利用者からの心あたたまる文章とともに紹介します。

(生活ガイド.com [https://www.seikatsu-guide.com/rank\\_minna/result/6/](https://www.seikatsu-guide.com/rank_minna/result/6/))

## 施設が出来た背景と経緯

さくらんぼタントクルセンターは、今から20年前に構想に着手し、15年前にできた保健・福祉・医療の拠点施設です。特に大型遊戯施設である「けやきホール」は、市内外から多くの親子づれが訪れ、常に子どもの笑い声にあふれ、本市の子育て支援の最もシンボリックな、施設の1つとなっています。また、子育てに関する行政の窓口を施設内に集約し、妊娠、出産、育児の切れ目ない支援を行っております。建設にあたっては、10回もの市民との意見交換会を実施し、積極的に意見を取り入れ、市民の思いがたくさん詰まった施設です。運営はその時の市民の数人が、自らNPOを立ち上げ、思いを実現すべく携わっています。市民からも好評で、愛着を持たれている施設です。

## 利用者からの声

5歳の娘と1歳の息子の母です。転勤や帰省で複数の都道府県で生活経験があり、各地の子育て支援施設を利用してきました。様々な面から考えて「けやきホール」は居心地の良さはナンバーワンです。その理由は館内の環境と雰囲気の良いことです。まず環境。外壁がガラスなので、明るく暖かな陽射しが降り注ぎます。3階までの吹き抜けを活かした大型遊具や長いスロープがあるので、見た目以上に広く遊べます。次に雰囲気。禁止事項などの張り紙は少なく、良い意味でゆるい雰囲気で自由度が高いです。自由参加のイベントも日常的にあり、子どもも大人も友達を作りやすい雰囲気です。そして、その居心地の良さを支えてくれているのがスタッフさんたちです。子どもにも保護者にも寄り添い、共に活動したり支援してくれたりするので、その存在に救われている保護者は少なくないと思います。これこそが他にない最大の魅力かもしれません。

## 新たな気持ちで進化を

「けやきホール」がオープンして15年、私たちスタッフが何よりも大切にしてきたことは、来館していただいた親子に寄り添う気持ちでした。同サイトに掲載された文章に、その思いが利用者にしっかりと届いていると感じています。けやきホールの他に、白石市の「こじゅうろうキッズランド」や、三重県津市の「げいのうわんぱく」北九州市の「子どもの館」も紹介されていますが、特に昨年開設した「こじゅうろうキッズランド」は、山田市長が議員時代にけやきホールを視察して参考にしたことが記されており、私たちの15年の経験の重みと、先駆的な役割を果たしてきたことを感じています。これからもけやきホールが市内外から訪れる利用者にとって居心地のいい場所、心のよりどころになるよう、知恵を出しあい進化していきたいとあらためて決意しています。(高橋幸江)



# 子どもの成長を「わらべ唄」であそぼう！

ながす

今、子育てをしているママたちにとって、子育ての中に「わらべ唄」は身近ではありません。10月の子育て講座「感覚を学ぶ」で、乳幼児期に十分に遊んで〈感覚〉を育てることが大切であることを学びました。その中のアプローチのひとつとして、家庭でもできるわらべ唄の良さを再認識しました。わらべ唄をもっと身近に、伝承していきたいの思いで、あそびあランドの、毎週月・木曜日に開催している「あそびあひろば」に、東根市内で地域の子どもたちに昔遊びを伝える活動をしている楽楽クラブの方をお招きして「わらべ唄であそぼう」を開催しました。

当日は「パンダ、ウサギ、コアラ」など親子で遊べるわらべ唄や、タオルケットを使ってゆらゆらブランコをするあそび唄や、お手玉や電車ごっこで一緒に遊びました。途中、子どもたちが自由に遊び始めても、温かく子どもたちの遊びを見守ってくれ、笑いあふれる雰囲気、子どもたちはすっかり楽楽クラブの方と仲良くなっていました。

来園者のほとんどが核家族での子育て中、楽楽クラブの方々と関わったことは、ママたちにとっては子育ての先輩として悩みを聞いてもらったり、料理などの様々な知恵を教えてもらったりといい機会になりました。これからもわらべ唄を通して、みんながつながり次の世代に伝えていただければと思います。

(高橋陽介)



この本は、平成二十三年に子どもの唄編集委員会が編集して発行されたものです。まだ在庫がありますので、子育てに、コミュニケーションづくりに活用してください。一部二二〇〇円(税込) タントクルセンター受付で取り扱っております



## わらべ唄のあそび

楽楽クラブ 鈴木茂子

♪あがり目 さがり目♪  
♪だるまさん だるまさん ならめっこし  
ましょ♪

先日、パチパチと柔らかい暖炉の温もりにつつまれたあそびあランドのセンターで楽楽クラブの会員とわらべ唄遊びを楽しみました。朝「おはよう！」「おはよう」と交わす笑顔で寒さも吹き飛びました。

♪ここは父ちゃん似どころ ここはコチョコチョコに、身を縮ませ喜ぶおさなごたち、♪発車ゴーゴー、膝の上に乗って左右へと揺れるバスごっこ等等など。何の抵抗もなく身をまかせ、リズムに乗った唄、ことばに聴き入る心地よさ、満面の笑顔が親子ともども爆発します。同じ唄を繰り返し繰り返し、いつしか身体に染み込んでいきます。誰にでも一つやふたつ思い出されるわらべ唄。若い男性職員が、生き生きとたわむれる姿に、嬉しさと頼もしさを感じ、元気をいただいていた婆さんたちでした。





東根市唯一の児童合唱団としてさくらんぼ  
タントクルセンターを拠点として音楽活動続  
けてきたけやきジュニア合唱団が、今年で15  
年目を迎えます。団員は年長児から中学校3年  
生までと幅広く、指導して下さる東海林恵  
里子先生とピアノ伴奏の奥山まき子先生を中  
心に仲良く楽しく歌っています。

昨年は東根市総合文化祭、山形県少年少女  
合唱祭に出演したほかに、東根市音楽連盟に  
よる「東根市の歌」CD制作には歌声で参加  
しました。

昨年12月14日（土）は、毎年恒例になっ  
ている、けやきホールでの「クリスマスミニ  
コンサート」を行いました。子どもたちといっ  
しょに、東海林先生も赤鼻のトナカイに仮装  
して、歌とハンドベル演奏もあり、クリスマ  
スの雰囲気たっぷりの、かわいいところあつ  
たまる楽しいコンサートでした。

合唱団では新年度に向けて新しい仲間を募  
集しています。お問い合わせはNPO法人クリエ  
イトひがしねまで。（Tel0237-43-1155）

## 遊びは大人に なるための準備④



### 高橋京子ちゃんの巻

（メンタルヘルス地域振興担当理事）

戦後のベビーブームが収まったころに生まれ、村  
山市の大旦川のほとりで育った私の遊び場は、居合  
神社の境内、村山農業高校北側の草だらけのグランド  
で、学校が終わると毎日のように近所子ども達  
が大勢集まって遊びました。特に居合神社の境内に  
は、ばあちゃんに連れられた3歳ぐらいの幼児から  
中学生まで入り混じって、大きい子たちが年下の子  
たちの面倒を見ながら、陣取りやかくれんぼ、かた  
わらの堰では、ザッコしゅめなどで盛り上がり、薄  
暗くなってカエルが鳴き出し、家族が「ぼんげだほ  
〜」（夕ごはんだよ〜）と呼びに来るまで夢中で遊  
んだものでした。

女の子たち特有の遊びは、まりつき、ゴム跳び、  
おはじき、お手玉などで、歌をうたいながらの遊び  
が多かったようです。お手玉で「おひと〜つ〜、お  
ひと〜つ、おひとつはらっておさ〜らい」、「村の  
鍛冶屋」の歌をうたいながらのゴム跳びなど。

大学生時代、仙台に単身赴任中の父の宿舎の子ど  
もたちに「あそんで〜」といわれ、「村の鍛冶屋」  
のゴム遊びを「UFO」の曲に変えて教えたところ  
大うけで、毎日子ども達がいながら遊んでいたこ  
とがうれしく思い出されます。あのころはまだ子ど  
も達が外遊びをしていた時代だったんですね。

### 事務局の窓

小学5年生と中学2年生200万人を対象に  
実施されている「全国体力運動能力運動  
習慣等調査」の結果が発表されたが、小中学生男女とも昨  
年度より著しく低下している。特に小学生男子は過去最低を記  
録。なかでも急落しているのが「走る運動能力」。原因はス  
マホやゲーム機の影響ではないかと分析している。原因のス  
マホ・ゲーム機を作ったのは大人でなかった。公園、遊  
び場でも「危ないから走らないで」という注意書を目にする  
一方で、屋内大型遊戯施設が15年前から存在しているやきホ  
ールで遊ぶ子ども達はみな汗だらけである。（Y）

### 編集後記

昨年の新年号で地球温暖化にふれたが、  
その結果としての自然災害の猛威は日本  
各地に予想を上回る大きな爪痕を残した。スウェーデンの少  
女グレタ・トゥンベリさんは国連で、経済を優先し環境を  
犠牲にしてきた世界の政治家に向けて、その「結果と共に  
生きなければいけない若い世代はあなたたちを許さない」  
と強く訴えた。国境は政治の産物として厳然とあるが、空  
気に国境はない。この悲痛な言葉を、私たちは未来を生  
きる世界のすべての子供たちの声として、真剣に受け止めて  
いかなければならないだろう。（M）